

若年性認知症ケア・モデル事業 事例発表研修会

若年性認知症への支援 について

(H24.3.27)

リハビリ・デイサービスセンター「しん」

代表社員 杉野哲裕

スタッフ一同

<認知症対応の実績>

●平成21年度～

□ 熊本県認知症予防モデル事業

□ (1)RTマシン

- リハビリテーション用に開発されたゲーム機を
- 使った取り組み

□ (2)イージー・キューブ

□ (3)タングラム

◎平成23年度～

□ 熊本県若年性認知症ケア・モデル事業

<若年性認知症ケア・モデル事業>

【対象者：2名】

□ (1)早発性アルツハイマー型認知症

- <年齢・性別> 60歳／女性
- <家族歴> 夫・義母との3人暮らし
- <介護度> 要介護1

□ (2)脳血管性認知症

- <年齢・性別> 52歳／男性
- <家族歴> 実母・弟との3人暮らし
- <介護度> 要介護2

□ ※H22.6.12～現在利用中

< 症例紹介（利用状況） >

【利用中止の理由】

(1) **症状**の急激な変化（展開）



徘徊の頻度が増大／見当識障害の悪化

(2) **身体症状**への影響



救急搬送（2回：10月）

血圧上昇／意識消失

<症例紹介（画像所見・薬剤情報）>

【頭部MRI】

血流SPECT

◎側頭頭頂部・後部帯状回の血流低下

【使用薬剤】

アリセプトの内服開始



状況を見ながら増量（10mg）する。

<症例紹介（性格・趣味・ニーズ）>

【性格】

明るく朗らかで社交的

【趣味】

運動をすること（バレーボール経験者）

【ニーズ】

本人

「住み慣れた家で，家族と楽しく元気に生活したい」

家族

「できるだけ元気で過ごしてもらいたい．日々の生活の中で，できることはさせてあげたい」

< 症例紹介（日常生活活動） >

【その他】

◎衣服着脱

一人で実施できない。

◎金銭管理

簡単な計算ができない。

◎服薬管理

飲み忘れが多い。

◎調理

全く、不可能である。

常時、夫（家族）の
介助が必要である。

洗濯

洗濯機の操作が可能
で、洗濯物は干せる。

<サービス実施状況（スタッフ配置）>

【事前検討】

- 1対1
- 1対複数

他の利用者との関係を注意深く観察
「会話のつなぎ役」
「観察し易い位置」

【実際】

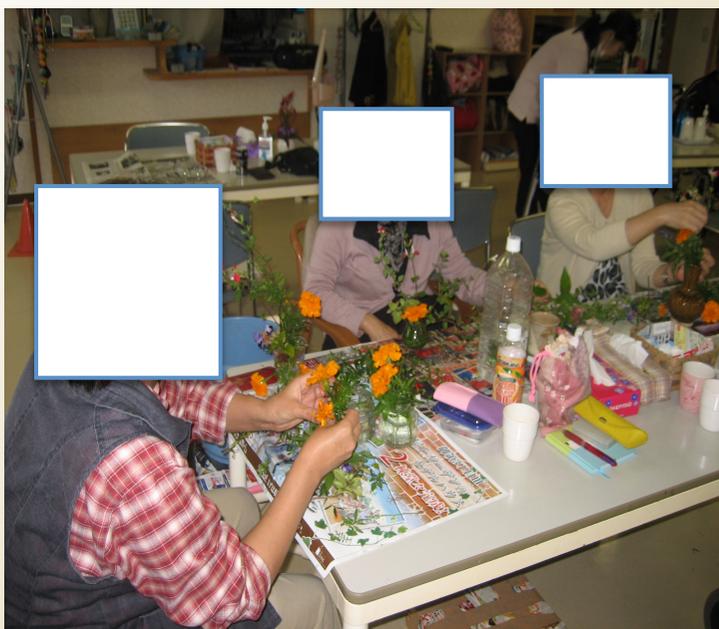
2つのパターンで対応
徐々に適応

← 本人の興味
「生け花」
「運動」
動機付けを強化して
実施

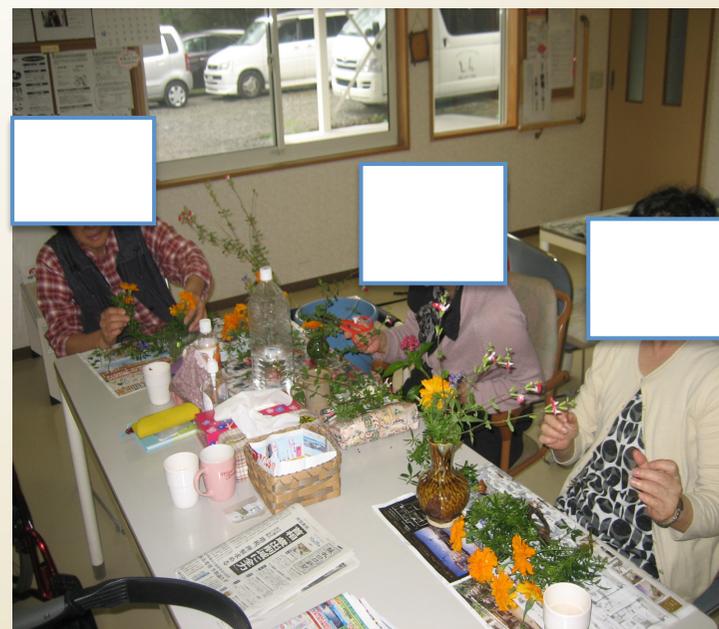
<サービス実施状況（アクティビティ）>

【生け花の様子】

作業は順調に経過

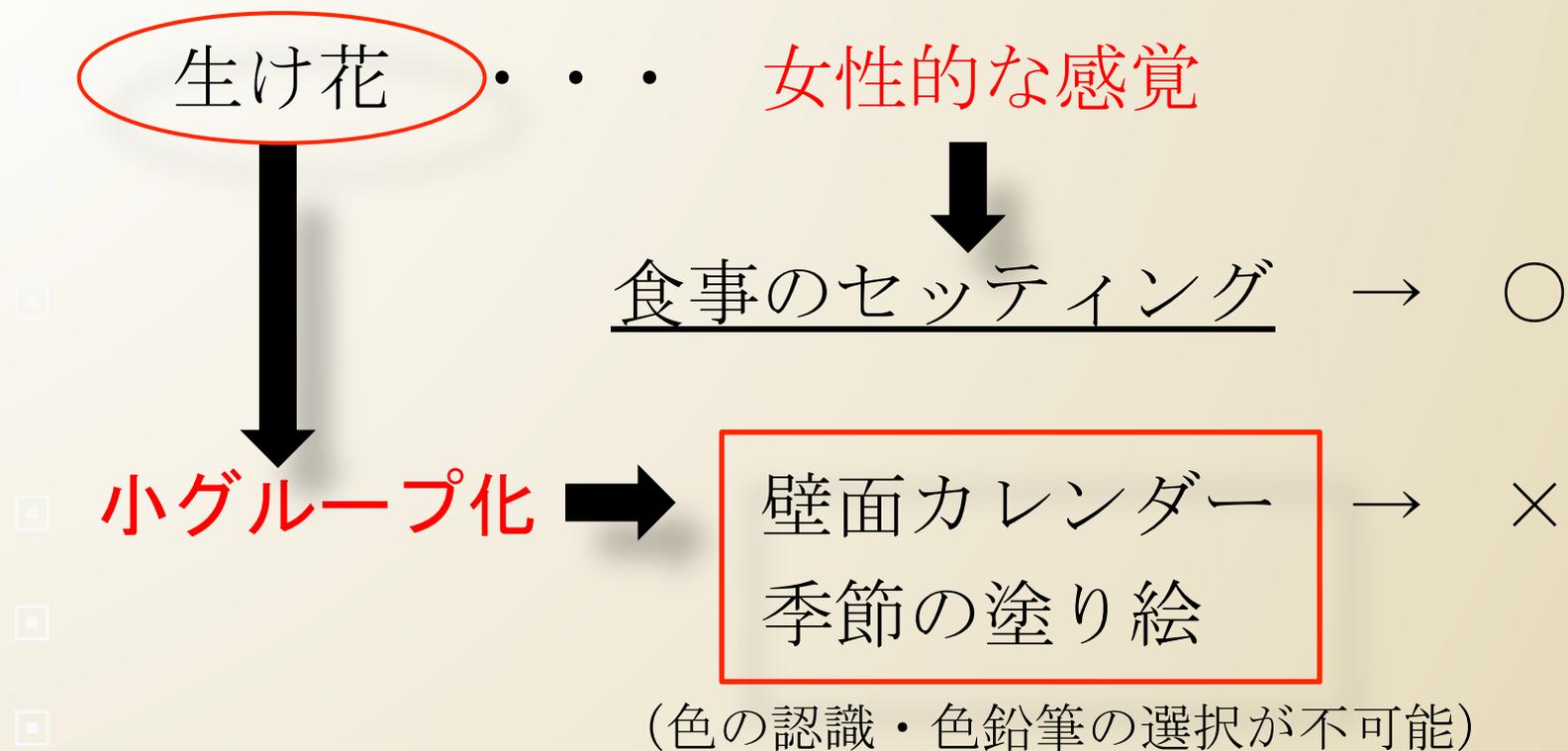


他の利用者と協調的



<サービス実施状況（アクティビティ）>

【生け花の効果を応用】



<サービス実施状況（セルフケア）>

【入浴動作】

衣服の着脱



←誘導

入浴可

●浴室の場所：×→○

【排泄動作】

衣服の着脱



←誘導

排泄可

●トイレの場所：×→○

●後処理：×

（スタッフにより実施）

＜ケアマネージャーや他の事業所との連携＞

【情報提供のための連絡態勢】

常時

【**地域連携勉強会**】 → 多くの関係機関との連携

- 障がい福祉サービス事業所
- 介護保険サービス事業所
 - (1)通所介護施設
 - (2)居宅介護支援事業所
 - (3)福祉用具貸与事業所
- 教育機関（大学／リハ専門学校）
- 旅行関係
- 建築関係
- 行政

その他